原田議員

問 新町の"まちづくり"の重要課題である、「雇用の場の確保」、そのための「地域資源の活用による事業の創出」についての考えを伺う

質問　新町建設計画では、森林事業の振興策が示されていない。「木質バイオマスエネルギー循環事業（燃料ペレット製造）」は林業の再生のみならず森林活用の事業創出の一環であるとした取組みが必要ではないか。①木質バイオマス事業は、森林づくり県民税による間伐事業、景観伐採事業等との連携が必要不可欠と思われる。②併行して、行政、工務店、製材関係、林業関係者等が一体となり、「大井川の木を使う」システムの構築といった取り組みが必要と思われる。③さらに、森林観光・レクレーションといった事業を興す絶好のタイミングと思われる。

町長　①少しでも森に資金を返したいという思いで、未利用間伐材等が活用できるシステムを矢崎総業との連携で開発し一つの仕組みを作った。ペレットの競合品というのは灯油であり、販売価格を如何に灯油並に下げるかが課題だ。景観関係の補助事業等を取り入れ、景観伐採を進めるとともに伐採木等はバイオマス事業にも活用させていただきたいと考えている。②全国的に見ても、森の再生事業が順調にいっているのは行政主導のものでなく主体者が民間であるものが多い。ユーザーに直接接している工務店、製材関係、林業関係といった方々が利害を超えて組織をつくることが大事かと思う。例えば、ブロック型のハウスを提供している地域の事例のように一般的な製材工場を作るというようなことでなく、この地域の特性を生かした、あるいは新しい分野に進出できるようなピンポイントの取り組みというのが今後必要と思われる。③「森林セラピー」については、ソフトの充実ということを求められており、健康の効果を実証するメニュー等が提供できるような仕組みづくりが必要である。当町としては森林を多面的に活用することが大事と考えているので、今後十分検討を重ね対応を図っていきたい。

質問　町営バス（コミュニティバス、スクールバス）事業については、受託業者間の過当競争の結果、地元の運転手は交通誘導員のパート賃金に及ばない低賃金化を強いられており折角の雇用の場が住民にとって歓迎されていない。町営のバス・タクシー事業に関しては、従来から地域に根ざしさらには観光立町の進展に貢献が期待できる地元企業との間で連携維持を図っていくことが大事ではないか。

町長　当町町営バス事業は、地域住民に安全・安心の公共交通サービスの提供と、地域住民の就業の場として一定の確保がなされていると考えている。今後も安全運行を確保しながら一定の価格競争により適正な価格で運行管理を外部委託する方向で進みたいが、今後の財政状況を考えればコストは安全が確保されるぎりぎりまで切り詰めていかざるを得ない。

質問　新町建設計画の中で、大井川やダム湖における観光・レクレーション・スポーツでの利活用がうたわれ、平成18年度には「カヌーのまちづくり事業」としての予算が計上されているが、長期戦略が読み取れない。塩郷ダムを拠点として捉え、それから上流の大井川の活用を図る設計が考えられる。

町長　現時点での長期計画の戦略としては、カヌーの普及、カヌー人口の拡大と各種大会誘致による地域活性化を大きな柱として推進しているところである。具体的には、少年期からカヌーに親しむ環境を整備するため、カヌー教室の実施や、カヌースポーツクラブの創設に特に力を入れ推進したいと考えている。また、全国的に見て数少ないカヌー競技施設を持つ町としての特徴を生かし、長島ダム管理所や中部電力など関係機関の協力を得て大会の誘致を図り、地域の振興発展につなげたいと考えている。塩郷ダム上流の大井川の広範囲な活用のご提案については、本年度は総合計画を策定することになっているのでその中で推進方策を明確にしていきたい。

答

1、森林事業 ― 地域性を生かしピンポイントの取組みを

2、町営バス事業 ― 地域住民の就業の場として確保

3、カヌーのまちづくり ― 今はカヌー人口拡大の時期